

## 優秀賞

### そっと寄り添ってくれるのも親切

香川県 西中学校 一年

川内 勇貴

ぼくは、これまで誰かが辛い思いをしているときは、声をかけるのが親切だと思っていました。友達がけがをしたときには、「大丈夫？」と声をかけ、友達が落ち込んでいるときは「どうしたの？」と声をかけていました。でも、ある友達の行動のおかげで、声をかけることだけが親切ではないと感じました。

先日、中学総体に出場しました。ぼくは、100メートルバタフライと200メートル個人メドレーにエントリーしていました。ぼくの本命は、100メートルバタフライで、決勝で2位までに入り、四国総体に出場することが目標でした。

100メートルバタフライの予選。1日に予選・決勝で4レース、600メートル泳がないといけなないので、体力温存でペースを考えて、レースに出場しました。計画どおり、ペース配分できたところゴールしました。すると、「ただいまのレース、第6コース川内くんはゴールタッチに違反があり、失格となりました。」と放送が入りました。

ぼくは、目の前が真っ暗になりました。どうやってプールからあがったのかも覚えていません。同じ組で泳いでいた子に声をかけられても、何も答えることはできませんでした。ただただ、タオルに顔をうずめるだけでした。(この種目にすべてをかけていたのに、どうして、どうして)と、心の中で何度も何度もつぶやきました。

そんなぼくに、そっと寄り添ってくれた子がいました。小学生のときから、いつも一緒に戦っているライバルの友達でした。同じ種目に出場して、試合のたびに勝ったり負けたりしながら、一緒に頑張ってきている友達です。その子に勝つと嬉しいし、負けると悔しいです。負けが続くと、その子と泳ぐのが怖くなります。でも、そんなときでもやっぱり、その子のことは大好きで、試合のときはいつも一緒にいます。

その子は、落ち込んでいるぼくに、声をかけるでもなく、ずっとそばについていてくれました。声をかけられなくても、ぼくのことを心配してくれているのが伝わってきました。何か声をかけてくれても、話せる気分ではなかったもので、ありがたかったです。友達は声をかけずに、そっとしておいてほしいぼくの思いをくみとってくれたのです。

この友達の行動で、言葉にしなくても思いが伝わるのが分かりました。親切とは、声をかけるかどうかではなく、相手を思いやった行動ができるかなのだと感じました。いくら優しい言葉かけをしても、相手がそれを望んでいなければ、その言葉は心に響きません。

きっと友達は、落ち込んでいるぼくのそばにいるのは居心地が悪かったと思います。でも、そばで寄り添ってくれたその優しさがぼくに、「次、またがんばろう」という勇気をくれました。

ぼくもその友達のように、相手の望んでいることを考えて行動できる人になりたいです。